



環境への配慮

◆「脱炭素」目標達成に向けた進捗状況

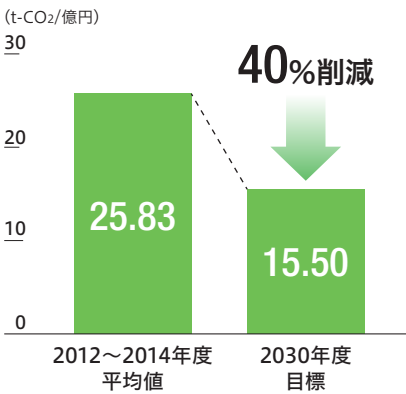
当社は「大地への愛、人間への愛」をスローガンとして掲げ、建設業の本来の役割である自然との共生を図りながら、生活環境を豊かにしていくという今まで当たり前続けてきたことを更に強化し、進めてまいりました。近年、世界的な解決課題として顕在化している気候変動をはじめとする環境問題への対応として、CO₂(二酸化炭素)をはじめとする温室効果ガスの排出量削減を目指す「脱炭素化」が建設業においても重要な経営課題となっています。当社は2021年、脱炭素の全社目標として、2030年度に施工段階におけるCO₂排出量の40%削減^{※1}、さらに2050年度にCO₂排出実質ゼロの達成を目指すことを掲げました。

目標設定後の2年度目である2022年度は、施工高1億円あたりのCO₂排出量は2021年度の18.20tから15.80t^{※2}と2.40tの減少となりました。

なお、工種によりCO₂排出量の多寡には大きな差があるため、当社の建設事業におけるCO₂原単位排出量はその時点で施工中の手持ち工事の工種構成等の要素により大きく変動します。

当社は引き続き、施工時の工夫や技術開発など様々な取り組みを通して「脱炭素化」を実現する具体策にスピードを上げて取り組んでまいります。

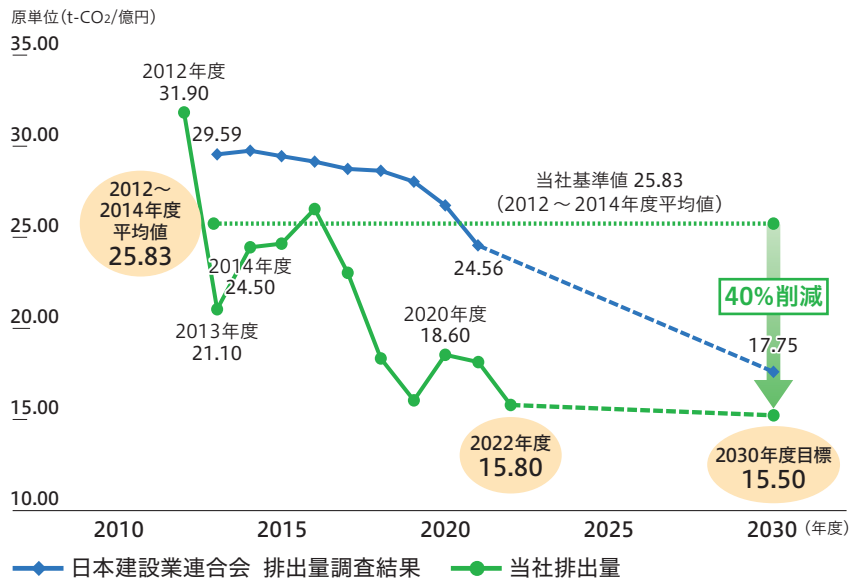
※1 2012年度から2014年度の3年度平均値対比。目標値は施工高1億円あたりの排出量(原単位)で設定。
※2 日本建設業連合会の定める算出基準で計算。



CO₂削減目標
施工段階におけるCO₂排出量
2030年度に▲40%

※施工高1億円あたりの排出量(原単位)

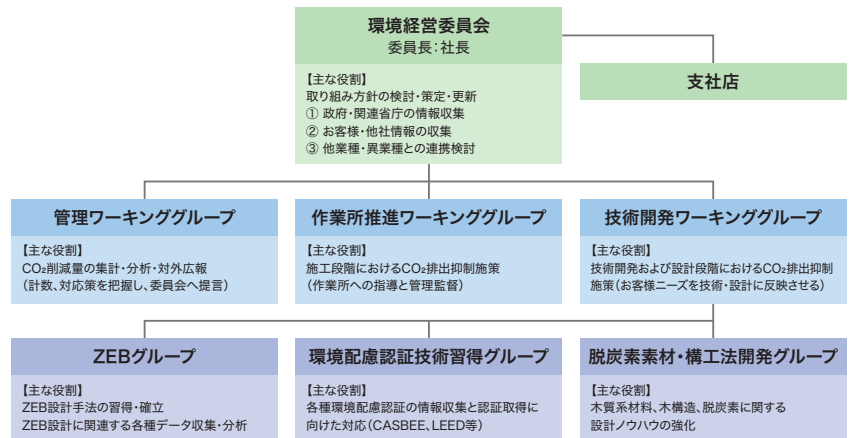
CO₂排出量推移と削減目標



◆ 社長直轄の「環境経営委員会」

「脱炭素化」に向けた目標達成のため、当社では社内に社長を委員長とする「環境経営委員会」を設置し、傘下の各ワーキンググループにて脱炭素化に向けた取り組みを組織横断で進めています。

2022年度には計7回の「環境経営委員会」を開催し、委員長である社長の臨席のもと、各部門の目標達成に向けた進捗状況の報告や課題の洗い出し、脱炭素化に関連した技術開発や関連する法令・認証制度等についての情報共有を行いました。





615万kWh



4,348kℓ

▶ 型鋼(電炉)	8,731 t
▶ 高炉セメント	6,673 t
▶ エコセメント・コンクリート製品	81 t
▶ 透水性舗装	13 m ²
▶ 再生アスファルト合材	2,974 m ²
▶ スラグ路盤材	3 m ²
▶ 再生砕石	21,356 m ²
▶ 再生砂	2,040 m ²
▶ 再生安定処理土	472 m ²
▶ 流動化処理土	2,463 m ²
▶ 土壌改良(固化)材	1,531 m ²
▶ 代替型枠(打込み型枠等)	22,159 m ²
▶ 断熱材(グラスウール・ロックウール)	34,597 m ²
▶ パーティクルボード	2,662 m ²
▶ 木質系セメント板	1,696 m ²
▶ エコクロス	2,670 m ²
▶ 石膏ボード	30,552 m ²
▶ 岩綿吸音板	733 m ²
▶ 塩ビ系床材	1,360 m ²
▶ 再生硬質塩ビ管	600 m
▶ 断熱サッシ・ドア	154 枚
▶ LED照明器具	2,393 台